



しかし時は経つもの変わるもの。明治の終わり頃にもなると、せつかくの鉄の橋も力不足となつてしまいます。明治42年、心齋橋はついに架け替えられました。この時架け替えられた心齋橋はちよつと意外なことに石アーチ橋。川の中央に橋脚を持つ2連の石アーチだったようです。

鉄の心齋橋は撤去され、そうして冒頭に掲げた写真の通り現存しているわけですが、現在の位置に収まるまでに4度も場所を移しているうえ、一時期行方不明になっていたらしいのがまた面白い逸話です。

旧橋紀行を書く時にいつも参考にしている「日本の橋——鉄の橋百年のあゆみ——」によると、西淀川区出来島町の**新千舟橋**が旧心齋橋の桁を流用したものではないかと考えられていた時期があるとか。しかし、この橋の竣工は昭和4年で、明治から昭和初期に至るまでの間に空白期間が生じます。あんなに特徴的で大きな橋ですから見間違えることはないような気もしますが、それでも「かも知れない」という推測の域を出なかつたこと、20年間ばかりどこで何をしてたかはつきりしなかつたことは面白い話です。それが「府治要覧」という本にある記録から、境川運河にかかる**境川橋**に使われていたことが判明したんだそうです。橋の竣工年（や撤去の記録）が空白期間を埋めるもので、橋の長さもちょうど同じだったのが決め手になったとか。